

低侵襲心臓・血管病治療センター

● スタッフ（2021年10月1日現在）

センター長	近森 大志郎（循環器科内科）
副センター長	荻野 均（心臓血管外科）
専任スタッフ	伊藤 亮介（循環器科内科）
	中野 優（心臓血管外科）
兼任スタッフ	山下 淳（循環器科内科）
	村田 直隆（循環器科内科）
	小松 一貴（循環器科内科）
	福田 尚司（心臓血管外科）
	神谷 健太郎（心臓血管外科）
	岩橋 徹（心臓血管外科）
	島原 佑介（心臓血管外科）

● センターの特徴

心臓・血管病の治療には外科手術と内科治療があります。

外科手術は体に対する侵襲（負担）が大きいので、カテーテルを用いた負担の少ない低侵襲治療が発展してきました。東京医科大学病院では約20年前に大動脈瘤に対してステントグラフトを用いたカテーテル治療を広めるために本治療センターを設立いたしました。

その後、胸部大動脈瘤・腹部大動脈瘤に対する治療成績は向上し、さらに、下肢閉塞性動脈硬化症に対するカテーテル治療も進歩してきました。

また近年になって、外科手術しか根本的な治療法がなかった心臓弁膜症に対しても、カテーテルによる治療法が行われるようになりました。このような治療法の中で、本邦で最初に保険適応となったのが大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）です。東京医科大学病院でも2020年7月からTAVIを開始しています。

これらの治療成績については、診療実績の項目をご参照下さい。

これからも他の弁膜症に対するカテーテル治療や、重症の閉塞性動脈硬化症に対する再生医療などが発展してきています。当治療センターではこれらの最新治療の認可を受けながら、患者さんにとって低侵襲で高度な先進医療を実施していきたいと考えております。

● 対象疾患

- 大動脈疾患（ステントグラフト内挿術）
胸部大動脈瘤、腹部大動脈瘤、慢性大動脈解離／解離性大動脈瘤
- 弁膜症疾患（カテーテル治療）
大動脈弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症
- 末梢血管疾患（カテーテル治療・再生医療）
閉塞性動脈硬化症、腎動脈狭窄症、鎖骨下動脈狭窄症、ルーリッシュ症候群、バージャー病、膝窩動脈瘤、深部静脈血栓症、血栓症後症候群

● 主な治療法

■ 診断法・診断機器

- 12誘導心電図検査
- 経胸壁心エコー検査
- ドプタミン負荷心エコー検査
- 経食道心エコー検査
- Multi slice CT検査
- 心臓カテーテル検査
- 血管造影検査

■ 主な治療法

- 経カテーテルの大動脈弁留置術
(TAVI/TAVR:Transcatheter Aortic Valve Implantation / Replacement)
- 経カテーテル的バルーン大動脈形成術
(BAV:Balloon Aortic Valvuloplasty)
- 胸部ステントグラフト内挿術
(TEVAR:Thoracic EndoVascular Aortic Repair)
- 腹部ステントグラフト内挿術
(EVAR:EndoVascular Aortic Repair)

■ その他の治療法

- 経皮的血管形成術
(PTA:Percutaneous Transluminal Angioplasty)
- 再生医療：自己骨髄由来培養間葉系細胞移植による末梢動脈疾患に対する完全自家血管新生治療

● 診療実績

■ TAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）

期間：2020年1月～2022年8月

件数：95件

■ EVAR・TEVAR・PTA

期間（年）	EVAR（件）	TEVAR	PTA
2021	53	35	136
2020	52	32	45
2019	68	20	130
2018	68	34	114
2017	71	42	121
2016	61	30	127
2015	54	37	93
2014	29	24	76
2013	33	20	80
2012	54	28	79
2011	41	33	64
2010	35	52	18

